二葉の里歴史の散歩道 散策マップ



散歩道の魅力

広島市の都市の歴史は、400年余り前の戦国時代、毛利輝元が太田川デルタに城を築き、この地を「広島」と名付けたことに始まる。

毛利輝元、福島正則、浅野氏と変わる歴代の城主は城の鬼門にあたる北東の地、二葉の里方面に領土鎮護のため、お寺や神社を建てた。

古くは、1000年前まで遡る歴史を持つこの散歩道の中で、原爆により焼失した由緒ある神社やお寺もあるが再建され、先人の歩んできた歴史を今日に伝えている。

広島市東区もてなしのシンボルマーク

二葉の里歴史の散歩道ボランティアガイドの会が案内しています。

定期ガイド

7月を除く毎月28日（ふたばの日）
午前9時50分にJR広島駅北口
2階ペデストリアンデッキ中央
円形部分集合

いつでもガイド

2週間前までに要予約
（問合せ先:東区地域起こし推進課）
12月29日～1月3日、
7月20日～8月20日は休み

※気象警報、熱中症警戒アラート発表時は中止

一、らくらく七福神コース

七福神がある社寺を巡るコース。
⑦饒津神社～⑧明星院～⑨鶴羽根神社～⑩広島東照宮～⑬尾長天満宮～⑭國前寺～⑮聖光寺

二、国宝探訪健脚コース

市内唯一の国宝がある「不動院」まで行くコース。
⑦饒津神社～⑥安楽寺～工兵橋～②日通寺～①不動院

三、見晴らし満喫コース

二葉山山頂まで登るコース。階段の山道を登る。
⑩広島東照宮～⑪金光稲荷神社～高射機銃陣地跡～⑫二葉山平和塔～⑬尾長天満宮

四、合格祈願コース

菅原道真を祀る「尾長天満宮」とミソ地蔵のある「才蔵寺」を巡るコース。
⑩広島東照宮～⑬尾長天満宮～⑯才蔵寺

五、西国街道コース

復元された猿猴橋から愛宕神社を通り矢賀一里塚までの西国街道を巡るコース。
猿猴橋～友元神社～愛宕神社～我羅我羅橋跡・三本松～⑯才蔵寺～岩鼻跡～矢賀一里塚跡

凡例

- 二葉の里歴史の散歩道
- 西国街道
- バス停
- めいぶる～ぷバス停
- JR
- アストラムライン
- トイレ

二葉の里歴史の散歩道全コース

所要時間 / 距離

不動院 —約16分 800m— 日通寺 —約18分 1.1km— 工兵橋 —約15分 900m— 碇神社 —約10分 600m— 安楽寺 —約13分 800m— 饒津神社 —約2分 100m— 明星院 —約2分 100m— 鶴羽根神社 —約7分 450m— 広島東照宮 —約10分 700m— 尾長天満宮 —約4分 250m— 國前寺 —約4分 250m— 聖光寺 —約10分 700m— 我羅我羅橋 —約10分 700m— 才蔵寺 —約18分 1.3km— 矢賀一里塚跡

広島東照宮 —約15分 900m— 広島駅新幹線口

尾長天満宮 —約15分 900m— 金光稲荷神社 —約1分 50m— 二葉山平和塔 —約20分 400m— 約20分 1.0km

饒津神社 —約15分 1.1km— 猿猴橋 —約10分 650m— 愛宕神社 —約5分 300m— 我羅我羅橋

天神川駅 —約10分 600m— 矢賀一里塚跡

※社寺間の距離は門と門の距離を示します。

見どころいっぱい！ 広島の歴史のルーツ「二葉の里歴史の散歩道」を散策してみませんか！

1 不動院（ふどういん）

牛田新町三丁目4-9
アストラムライン不動院前からすぐ



現在、当寺が安国寺不動院と呼ばれる由縁は、光厳上皇の院宣により足利尊氏が諸国に修造した安国寺の一つで、安国寺恵瓊が伽藍を再建。福島正則が本坊に不動明王を祀り、臨済宗から真言宗に改めた。

☎082-221-6923

2 日通寺（にっつうじ）

牛田新町一丁目3-13
バス停牛田新町一丁目から徒歩3分



浅野2代藩主光晟の夫人(前田利家の孫・自昌院）の晩年の願いにより、元禄8年(1695)に建てられた藩主ゆかりの法華宗の寺。

見どころ 梅鉢紋入手水鉢が加賀前田氏との関連を物語る。

☎/Fax082-211-2825

3 水道資料館（すいどうしりょうかん）

牛田新町一丁目8-1
ビッグウェーブの北隣り(バス停スポーツセンター前から徒歩10分)



広島市の水道は、明治31年(1898)全国で5番目に完成。この資料館は送水ポンプ室跡。

見どころ 伊藤博文揮毫(きごう)の石額がある。

開館時間：9時～17時（入場は16時30分まで）
開 館 日：日・水・金・土曜日及び祝日、並びに水道週間（6月1日～7日）、夏休み（7月21日～8月31日）（ただし、12月～2月は休館）
広島市水道局☎082-511-6808

4 八剣神社（やつるぎ）

牛田大橋南詰
バス停牛田本町から徒歩3分



福島正則が広島城主であった頃、人柱に代え名剣8振を地中に埋めて洪水による土手の被害を防いだという。
元和3年(1617)に社が建つ。この地に残る正則の唯一の治世の史跡である。

5 碇神社（いかり）

中区白島九軒町12
バス停白島九軒町南側すぐ



天正17年（1589）広島城の築城前からこの地に祀られた海神で、城下町で1番古い神社。当時この辺りは海辺で往来の船が碇を降ろしたことから呼ばれるようになったという。

☎082-261-2954（東照宮社務内）

6 安楽寺（あんらくじ）

牛田本町一丁目5-29
バス停神田橋から徒歩3分



浄土真宗のお寺で天文2年（1533）天台宗から改められた。宝暦の大火（1758）で類焼したが天明8年（1788）再建された。原爆の爆風で傾いた本堂が今も健在。

☎082-221-1729

見どころ 樹齢350年の大銀杏が山門の屋根を貫く。（写真中央）

7 饒津神社（にぎつ）

二葉の里二丁目6-34
バス停饒津の東側



浅野9代藩主斉粛（なりたか）が始祖長政を祀るため、天保6年（1835）に造営した。昭和20年（1945）8月6日、原爆で社殿等は全て焼失したが昭和59年に再建。☎082-261-4616

見どころ 向唐門は、平成12年に復元され全国で有数の大きさ。

8 明星院（みょうじょういん）

二葉の里二丁目6-25
バス停鶴羽根神社前から徒歩3分



毛利輝元の生母妙寿院の菩提寺であったが長州へ移封後、福島正則が明星院と改めた。歴代城主の保護も厚く、領内鎮護の祈祷寺とされた。堂宇は原爆で全て焼失。その後再建。

見どころ 本堂内の赤穂義士木像は必見。☎082-261-0551

9 鶴羽根神社（つるはね）

二葉の里二丁目5-11
バス停鶴羽根神社前から徒歩2分



鎌倉時代創建の椎木八幡宮が前身と伝えられる。広島東部の総氏神と崇敬厚く、明治5年鶴羽根神社と改名。社殿等は原爆で全て倒壊。その後再建。

見どころ 日本初の民間飛行士山縣豊太郎の像が平成13年夏再建された。

☎082-261-0198

10 広島東照宮（とうしょうぐう）

二葉の里二丁目1-18
広島駅新幹線口から徒歩15分



徳川家康公を祀る神社である。浅野２代藩主光晟が慶安元年（1648）に造営した。
2015年大祭である通り御祭礼が復活した。
原爆により本殿・拝殿は焼失したが、唐門・翼廊は残った。

☎082-261-2954

11 金光稲荷神社（きんこういなり）

二葉の里二丁目1-18
広島東照宮上



商売繁盛・家内安全・諸願成就の大神として崇敬が厚い。

見どころ
- 奥宮までは、120基余りの鳥居と433段の石段あり。
- 周辺のシリブカガシの群生はわが国最大規模。

☎082-261-2954

12 二葉山平和塔（ふたばやまへいわとう）

二葉山山頂
広島駅新幹線口から徒歩35分



世界の恒久平和を念願し、原爆の犠牲者の冥福を祈るため昭和41年（1966）に仏舎利塔として建立された。

見どころ 広島市内や宮島、似島など瀬戸内海の島々を一望できる。

13 尾長天満宮（おながてんまんぐう）

山根町33-16
広島駅新幹線口から徒歩15分



学問、書道の神として菅原道真を祀る神社。道真が九州太宰府に下る途中、当時海辺であった尾長山の麓に船を寄せてこの山に登ったゆかりの地である。

見どころ 裏山が天神川の源流。峰に平清盛が社殿を建立したと伝えられている。

☎082-264-5192

14 國前寺（こくぜんじ）

山根町32-1
広島駅新幹線口から徒歩15分



浅野藩の菩提寺として造営された日蓮宗の寺。2代藩主光晟の夫人（自昌院）の発願により、寛文11年（1671）に寄進建立された。☎082-261-4578

見どころ 仏典翻訳の功労者鳩摩羅什（くまらじゅう）の国内唯一の木像がある。

15 聖光寺（しょうこうじ）

山根町29-1
広島駅新幹線口から徒歩20分



かつては瑞川寺と称し、広島で最古の一つで曹洞宗の寺。毛利輝元が城地検分時この寺に泊まり山号を広島山と改めたという。

見どころ 赤穂義士大石父子の供養墓がある。

☎082-264-1220

16 才蔵寺（さいぞうじ）

東山町1-11
広島駅新幹線口から徒歩40分



福島正則の家臣、可児（かに）才蔵を祀る寺である。才蔵ゆかりのミソ地蔵の頭に味噌を供え、合格を祈願する受験者や保護者が今も絶えない。

見どころ 合格祈願のミソ地蔵が有名。平成16年11月に可児才蔵の石像が建立された。

☎082-261-1848



詳しくは、「東区二葉の里歴史の散歩道」ガイドブックをご覧ください。
（東区役所（地域起こし推進課）と各神社・お寺に置いてあります。）

編集 / 二葉の里歴史の散歩道ブラッシュアップ研究協議会
（地域代表、沿道の神社・仏閣、公募委員等）
発行 / 広島市東区役所 地域起こし推進課 ☎(082)568-7704

令和6年7月発行